

読書推進運動

No. 700

- ★「こどもの読書週間」ポスター完成(2・3頁)
- ★「伊藤忠記念財団 子ども文庫助成」募集要項(5頁)


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 会員の購読料は
 会費の中に含まれる

定価 60円



公益社団法人 読書推進運動協議会理事
株式会社 福音館書店 代表取締役社長
佐藤潤一

人との結びつきから始まる読書

「こどもの読書週間」によせて

さとうじゅんいち
佐藤潤一

当福音館書店は巢鴨で40年以上出版活動を続けてきました。昨年、中野坂上に移転いたしました。弊社がありがたいために「絵本の老舗」と言っていたことも多いですが、出版とは常にチャレンジしていくことですから、この移転を機に、「老舗」というイメージに慢心することなく、今後さらなるチャレンジをしていかなくてはと思っています。

とはいえ、子どもの本をとりまく状況はけっして楽観できません。少子化はもちろん、携帯によるSNSやゲームへの依存、資材や物流費の高騰、そもそも日本経済の先行き不安……など不安材料を挙げれば枚挙にいとまがありません。そんな中で、一児童書出版社としてなができる

だろうか？ 考え詰めると結局、1冊1冊の本を思い込めて作り、読者一人ひとりに思いを込めて手渡ししていくだけだと初心に帰らざるを得ません。チャレンジしていくと言った舌の根も乾かぬうちに初心に戻ってしまいました。新たなテーマやメッセージで新たな子どもの本の可能性にチャレンジしていくことはもちろん必要です。でも、子どもを取り巻く環境はいろいろ変わっても、子どもたちが楽しい、おもしろいと感じる心自体は、変わっていないはずだと思っております。

子どももおもしろいものには自分から手をのばすはず。読書が楽しい、本は楽しいと思えば、子どもはほとんど本を手に取り、むさぼるように読むことでしょう。しかし、現実にはなかなかそうはなっていない。その原因はいろいろあるでしょうが、自分の身のまわりを見渡すにつけ、「そもそも子どもがまわりにいる大人が本を読んでいるのか？」ということを疑問に思います。電車の中でも、道を歩きながらも、隙あらば携帯をいじる大人たち。しかも、なにをしていっているのかのぞいてみると、だいたいゲームです。こんな大人だけが身のまわりにいたら、子どもが本を読むわけがなく、当然、携帯に興味を向くことでしょう。でも、もし両親や先生が本好き、読書好きなら、その子どもは「本好き」とおもしろいんだろかな。だからみんな本を読んでいるんだらう。自分も読んでみよつと」と本に手を伸ばすと思います。

理想論かもしれませんが、身近な大人の影響で本を読む子どもが増え、まわりの友だちから「なに読んでんの？ おもしろい？」と聞かれ、その本を薦める。そういう連鎖が生まれないかぎり、読書の輪は広がっていかない。一見個人的行動に思える読書ですが、じつはまわりの人間への興味から始まり、さらに人と人が結びつくからこそ、読書の世界が広がっていくのだと信じています。そもそも本を読むこと自体、「人間について知りたい」という思いに裏打ちされたものなのですから。

現代は「個の時代」と言われますが、それが「孤(独)」の時代になっていないか？ まずは自分自身が人間に興味を持ち、本によって人間を知り、さらに人間同士の関係性を豊かにしていく。結果として、本がもたらす豊かな人生を享受してもらえたらと願わずにはられません。



広い世界へ羽ばたこう！

2026・第68回 こどもの読書週間 4/23～5/12

どんぐりまでも、どんぐりへでも飛べる
「ことばのはね」を子どもたちへ！

公益社団法人 読書推進運動協議会は3月中旬、「2026・第68回 こどもの読書週間」を開催するにあたっての協力をお願いを、全国の読書推進運動協議会、公共図書館、報道機関、関係者などのみなさんにお送りいたします。

今回の標語は610点の応募作から選ばれた「ことばがきみのはねになる」。作者の吉川彩奏さんは、「子どものころ、祖父が営んでいた書店が好きでした。あの本たちが、ことばたちが、私の羽根となり未来を彩ってくれました。次は私が届ける番です。たくさんの方が子どもに届くよう、そしてそのことばが子どもたちの羽ばたく力となるよう願っています」と、標語にこめた思いを語っています。新しい発見ができる本、空想の翼が大きく広がる物語などに加え、オノマトペやお国ことばが楽しめる本、磨きぬかれたことばが印象的な詩集など、「ことば」に着目した展示にもつながります。

さんの書き下ろしイラストです。図鑑を手に、「ことばのはね」で浮遊する女の子。鮮やかなグリーンとイエローが、春の季節によくあうポスターになりました。

当協議会のホームページの素材集では、例年同様にポスターとマーク、標語をあしらったロゴ(タイトル)の画像データと、ポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを3月初旬より順次、掲載しております。展示や、配付物への掲載、SNSでの投稿などにご活用ください(スペースに応じての多少のサイズ変更は認めます)。その他のデータ加工は「遠慮ください」。なお、今年のポスターもとても鮮やかな発色のため、ホームページ上では十分に色を再現することがむずかしく、広報誌などに掲載すると印象が変わるかと思えます。素材集データだけではなく、ぜひ、ポスター現物もあわせてご掲出、「活用をお願いいたします」。

ポスターは今年も、絵本作家ユニットのザ・キャンピカンパニー

ポスターは、3月中旬以降順次、公共図書館(都道府県立図書館へ



ポスターイラストを用いたグッズは当協議会ホームページよりダウンロードできます

送付)、学校図書館(全国学校図書館協議会を通じて送付)、書店(日本出版次協会を通じて送付)読書推進運動協議会会員、後援団体、関係団体などへお送りします。残部もごさいますので、希望者は事務局までお申しつけください。
【読書推進運動協議会 事務局】
 TEL 03-52244-5270
 TEL 03-52244-5271
 FAX 03-52244-5271
 e-mail info@dokusyo.or.jp
 (ドメインは「dokusyo」です。
 ※ご注意ください)

ホームページ

<http://www.dokusyo.or.jp>

2026・第68回「子どもの読書週間」開催についてのお願

会

期間 4月23日から5月12日

まで

標語 ことばがきみのはねになる

《行事内容》

●ポスターおよび広報文書配布

(公共図書館、全国小・中・高等学校図書館、有力書店、関係出版社、報道機関など)

●その他、都道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

《各機関へお願いの行事内容》

●公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「子どもの読書研究会」「子ども読書のつどい」「親と子の読書会」「大人による子どもの本研究会」「子どもの読書相談」「児童図書展示会」「児童文学作家による講演会」「児童図書出版社との懇談会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

●都道府県の読書推進運動協議会による都・道・府・県単位の「子ども読書大会」などの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

地域における、子どもの読書推進に力をそそいできました。

家庭における読書環境の整備は、以下の3点がたいへん重要です。

(1) 幼児には父母が本を読んで聞かせてあげる。

(2) 子どもたちの身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことをすすめ、本を読むのを聞いてあげる。

(3) そして大切なことは、父母みずからが読書する姿を、子どもたちの眼にふれさせる。

やがて、そこに本を中心とした話題が生まれ、親子の対話に発展することは明らかです。

地域の公共図書館、公民館、PTA、学校図書館、幼稚園・保育園、子ども文庫・地域文庫のボランティアなどによる、子どもたちへの読書指導、読書普及活動、これらががちり手を組んでいくならば、正しい判断力のもとに行動できる青少年の育成に、貢献でき

おくことが、次の世代を担う子どもたちにとって、どんなに大切であるかはいままさら申しあげるまでもありません。本を読み、読んで考え、考えて行動する子どもたちが育つならば、青少年に関する多くの問題点も解決されるのではないのでしょうか。

「子どもの読書週間」は子どもたちに、よい本やよい雑誌に親しむことをすすめ、読書の楽しみや喜びを知らせ、正しい読書の習慣を身につけてもらう好機です。そして同時に大人にとつては、子どもの読書がいかに大切なことか、よい本や雑誌を手渡すためにはどういう努力をしたらよいか、ということについて考える機会でもあるといえましょう。

公益社団法人 読書推進運動協議会では「子どもの読書週間」のテーマとして『家庭・地域読書のすすめ』をとりあげ、「家庭・地域に子ども文庫をつくらう」「親子読書を育てよう」など、家庭・

2025年度「こどもの読書週間」では、2000近くの主催者によって、全国各地でオリジナル化がいつそう進展し、特にAI技術の日常生活での活用によって、出版と読書に関わる環境にも多くの変化と課題があります。そのような状況だからこそ、子どもたちが読書の習慣を身につけることがますます重要になると考えています。

今年の標語は「ことばがきみのはねになる」です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけて

「ことばがきみのはねになる」

「ことばがきみのはねになる」

「ことばがきみのはねになる」

「ことばがきみのはねになる」

「ことばがきみのはねになる」

「ことばがきみのはねになる」

■第71回 青少年読書感想文全国コンクール表彰式

図書と向きあい、自分を知る、夢に向かう力とする

2月10日(火)、東京都千代田区の経団連会館で「第71回 青少年読書感想文全国コンクール(主催：公益社団法人 全国学校図書館協議会/毎日新聞社)」表彰式が、秋篠宮皇嗣妃殿下ご臨席のもと、開催された。

今回は、全国の小中高専学校と海外の日本入学校2万3536校より203万1259編の応募があり、最優秀作品5編はじめ、520人の入賞・入選者が表彰された。

受賞作品の朗読は、高等学校の部最優秀作品に選ばれた、荻原明音さん(群馬県立前橋女子高等学校)



受賞者代表のこぼを述べる北村那捺さん(写真提供：毎日新聞社)

校2年)。対象図書に登場する高校生たちの姿から自分自身を顧みて気づいたことや、これからへの思いを朗読した。その後、荻原さんの感想文の対象図書『銀河の図書室』(実業之日本社)の著者名取佐和子さんが、「(この作品は)自分の高校時代と重ねて書いたものではないが、荻原さんの朗読から、自分の高校時代の思いを認識した。感謝したい」と述べた。

受賞者代表のこぼは、『はしれ、上へ!…つなみてんでんこ』(ポプラ社)で小学校中学年の部最優秀作品に選ばれた北村那捺さん(静岡県焼津市立小川小学校3年)。SDGsを学び、「世界の平和を実現できる人になりたい。その夢をかなえるために本を読むことが好き、文を書くことが好き」と語った。

秋篠宮皇嗣妃殿下は、「子どもたちと本との出会いを支えてきた、家族、教員、司書など関係者のみなさまに感謝します。受賞された感想文が、私の心にも響きました」と、こぼを述べられた。

■子どもの読書推進会議総会

推進会議を構成する13団体よりユニークな活動が報告される

2月3日(火)、東京都千代田区の出版クラブビルで「子どもの読書推進会議 2025年度 第2回総会」が、野間省伸代表、野上暁副代表ほか運営委員多数の出席のもと開催された。

事務局より「2025年度上半期収支計算書」「2025年度絵本ワールド事業報告」および「2026年度絵本ワールド事業計画」「上野の森親子ブックフェ

スタ2025 決算報告」について報告、説明があり、討議の結果承認された。

2025年度「絵本ワールド」事業は、各地で積極的な取り組みがあり開催数7となった。昨年度策定した開催数と助成金額のルーにしたがって運営されている。「上野の森親子ブックフェスタ 2026」については、運営委員会を構成する出版文化産業振興財

■東京子ども図書館 リニューアル

資料保全性と、居心地のよさをさらに改善!

2025年7月より一部を休室していた、東京子ども図書館(東京都中野区)が、大規模改修を終え、2月7日(土)にリニューアルオープンした。

2月4日(水)6日(金)に行われた内覧会は、事前申し込み不要のこともあり、同館の利用者や講座卒業生など関係者のほか、多くの人たちが集まった。

料室は、書架を低くし、通気性と明るさを確保。同館名誉理事長の松岡享子さんの著作や翻訳、雑誌記事などをそろえた「松岡享子コーナー」が設けられた。

1階のホールには、さまざまな言語の絵本や、点字つきさわる絵本などを集めた「多言語・バリアフリーコーナー」を常設。また、不定期だが、セルフサービスの喫茶スペースも用意された。



開催数が増えている「絵本ワールド」(2025年度 沖縄会場)

団、日本児童図書出版協会より、従来の催事のスタイルを継続し、5月4日(祝)5日(祝)の2日間開催とするとの報告があった。

議事終了後に各参加団体から活動報告があり、最後に2026年度の会議予定を確認し、閉会した。



愛らしいイラストとぬいぐるみに彩られた「松岡享子コーナー」

今回のリニューアルについては、本紙5月15日発行号にて、東京子ども図書館よりご紹介いただく予定です。

■伊藤忠記念財団・2026年度 子ども文庫助成事業

贈呈先候補募集について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、1976年以来、公益財団法人 伊藤忠記念財団(理事長・鈴木善久)の「子ども文庫助成事業」に賛同し、毎年、助成贈呈先の案件募集の告知と事前調査を行っています。各道府県の読書推進運動協議会、全国の公共図書館をはじめ、ご協力をお願いする機関のみならず、文庫や実演活動を行っている個人・団体へご喧伝のほどをお願いいたします。

○実施要領(抄)

1、助成の対象

子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行っている内外の団体・施設・個人で、今後も活動を継続する意志のある方。

(I)子どもの本購入費助成(購入費助成) II子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会、子ども食堂(文庫併設)、学習支援ボランティア、外国にルーツのある子どもを対象とした活動など。3年以上の活動実績があること。

(II)病院・施設子ども読書活動費助成(病院・施設活動費助成) II小児病棟、障がい児施設、児童養護施設などの子どもたちに対し、読書活動を行っているボランティア団体や個人および施設、非営利団体

共機関は応募不可。ただし、(III)と(V)は一部公共機関も応募可。

2、助成の概要

(I)購入費助成 II 一律30万円を助成。(A)Bのプログラムよりひとつ選択。(A)児童書・絵本などの書籍、紙芝居、人形劇、パネルシアターなどの購入に15万円以上使用すること。その他の費用(講習会の開催費・参加費、書架・ブックコートフィルム・紙芝居やパネルシアターの舞台など備品購入費)は15万円まで。B伊藤忠記念財団が指定する「指定研修会」の参加費、交通費・宿泊代、出張講師派遣の講師謝礼・講師交通費・会場費などに全額を充当。「指定研修会」は応募要項を参照。「指定研修会」以外の研修会の自主開催については、応募者が文庫連絡会やそれに準じる組織であり、応募時に研修会内容、予算を明示することを条件に対象とする。

(II)病院・施設活動費助成 II (I)(A)に加え、障がいがある子どもたちに対する読書支援機器などの購入およびバリアフリー図書作成のための費用として一律30万円を助成。

(III)100冊助成 II 伊藤忠記念財団が選書した「小学校低学年向けセット」「小学校中学年向けセット」「乳幼児見せセット(各セット100冊)より希望の1セットを選択。または、4セットに2000年以降に出版された本を中心とした「150冊リスト」と、過去5年間に刊行された図書による「新しい本50冊リスト」を加えた600冊より任意で100冊を選ぶことが可能。

(IV)功労賞 II 賞状、記念品、副賞(30万円)

(V)特別支援助成 II 一律30万円を助成。学校図書館の蔵書となる児童書、絵本、図鑑などに加え、バリアフリー図書や読書支援機器の入手・作成のための費用にも充当可能。図書の購入・作成費として15万円以上を使用すること。その他の費用(書架・読書支援機器など備品)は15万円まで。バリアフリー図書作成のためであっても、参考書、問題集、教科書等、教材としての役割を主とする書籍は原則対象外。

校高学年向けセット」「乳幼児見せセット(各セット100冊)より希望の1セットを選択。または、4セットに2000年以降に出版された本を中心とした「150冊リスト」と、過去5年間に刊行された図書による「新しい本50冊リスト」を加えた600冊より任意で100冊を選ぶことが可能。

3、応募選択 II 助成のなかのいず

れかひとつを選択。

4、助成先決定までの流れ

(1)公益社団法人 読書推進運動協議会ほかによる事前調査。

(2)公益財団法人 伊藤忠記念財団職員による現地訪問(購入費助成、病院・施設活動費助成、特別支援

助成の国内応募者を予定)。(3)選考委員会で助成先候補者を選考。

(4)伊藤忠記念財団理事会において助成先対象者を決定(12月中旬)。

5、決定の通知 II すべての応募者に、結果を画面にて通知します。

●応募要項は左記のサイトよりダウンロード可能
伊藤忠記念財団
https://www.itc-zaidan.or.jp/

●子ども文庫助成応募書類の提出期間
2026年4月1日~6月18日(消印有効)

●応募にあたってのお願い
書類の提出(送付)先
〒107-0061
東京都港区北青山2-5-1
公益財団法人 伊藤忠記念財団
助成事業部

TEL 03-34497-2651
FAX 03-34470-3517
メールアドレス
bs-book@itc-zaidan.or.jp

また、同財団では現在、東京子ども図書館と協働製作した冊子『子どものための文庫の手引き』のPDFデータを同財団ホームページで公開している。

優良読書グループの歩み (3)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

読み語りボランティア「やまがっこ」

代表者 鶴飼 信好

宮城県仙台市

〈推薦〉

宮城県読書推進運動協議会

主として宮城県図書館のボランティアとして活動していた現代表と副代表が、同図書館ボランティアとして活動していた有志に呼びかけ、読み語りボランティア「やまがっこ」を設立し、現在にいたっている。

会員は12名。役員として、代表1名、副代表1名を置き、代表は、「子どもに伝わる読み」の指導を行い、副代表は会の会計、およびスケジュール管理をはじめ、会の活動に関する全般的な運営管理を行っている。

会では12名の会員を、①④のとおりに各地の読み聞かせ会に振り

わけて活動している。

- ①県図書館おはなし会（毎週日曜日、3〜4名ずつの交代制）
- ②仙台市泉図書館おはなし会（毎月第2日曜日、3〜4名ずつの交代制）、仙台市榴岡図書館おはなし会（毎月第4水曜、2名）
- ③幼稚園おはなし会（年6回、4名で2班に別れて年中組、年長組を担当）
- ④メンバー個人の活動として、小学校における朝の読み聞かせ（5人）

おはなし会での実演にあたっては、おおむね1か月以上前にプログラムを決め、当日までに作品のおもしろさを出せる読みに達するよう、読みの練習を重ねている。

プログラムの作成に当たっては、作品間のつながり感(連想ゲーム)に次の作品に繋がっていくなど、プログラムそのものの魅力を追求するよう工夫している。

当会では、読書推進の観点から「子どもたちに伝わる読み」を motto に、読む練習を徹底してきた。

作品を味わううえで大切なポイントが、聞いている子どもたちに理解できるように、主として代表が指導者となり、一定レベルまで達するよう、練習を重ねる。

毎週集合するが、練習とプログラム検討に時間をとられ、レクリエーションやお茶会などの時間は、ほぼゼロである。しかし、「伝わる読み」ができたときの子どものたちの集中ぶりを実感すると、それがなにより喜びとなっており、さらなる練習への意欲につながっている。

また、県図書館の一室を借用して、毎週日曜日午前中、メンバー以外の一般の希望者にも「伝わる読み」のための個人指導を実施し



「子どもに伝わる読み」を磨き続ける

ている。受講後、小学校で読み聞かせを行ったKさんは、それまでの子どもたちとけた外れの集中度を体験し、「読むって、こういうことだったんですね!」と、ボランティアとしてのほんとうの喜びを味わったことに感動している。

最近の状況から、子どもを読書の世界に誘うためには、就学前の時期におはなしのおもしろさに浸る力をつけることが必要だと感じている。

このため、今後は、幼稚園での活動の頻度を高めたいと思っている。

甲斐市立敷島図書館ボランティア 人形劇サークルうふふ

代表者 長田 明美

山梨県甲斐市

〈推薦〉

山梨県公共図書館協会
読書推進研究部会

当グループは、1995年に敷島町教育委員会が開催した「人形劇講座」を受講した有志により発足しました。図書館での定例おはなし会やイベント、児童館でのおはなし会や人形劇、また最近では敬老会での大人向けおはなし会も行っています。現在は、メンバー

7名全員が仕事とボランティアを両立しながら活動しており、出演依頼をいただいた際には、仕事を調整し、練習日を確保しています。しかし、全員が集まるのがむずかしい場合もあるため、そのとき来られる人で、できることを無理なくと、心にゆとりをもつて練習に励んでいます。

主に活動している図書館での定例おはなし会では、絵本の読み聞かせはもちろん、エプロンシアターや新聞紙を使ったシアター、工作など、職員の方々と相談しながら、子どもたちに楽しんでもらえるよう工夫してプログラムを考えています。また、グループの名前とおり、人形劇も行っており、特に力を注いでいるのが「ブラックライトシアター」です。真っ暗な舞台上、蛍光塗料で色付けした人形たちがライトの光で浮かび上がり、幻想的で美しく、楽しいステージになっています。

クリスマスのイベントで演じることが多く、毎年、子どもから大人の方まで楽しみにしてくださっています。しかしながら、上演中の舞台では、真っ暗な中、メンバー同士でぶつかったり、踏んだり、踏まれたり、息を切らして走ったりと「何歳までできるかなあ?」



大人気のブラックライトシアター

と笑い話をしながらがんばっています。人形劇の練習やおはなし会に向けた絵本の勉強など、たいへんな部分もありますが、子どもたちの「わあ、きれい!」「すごい!」という歓声や、楽しそうな笑顔が活動のエネルギー源になっています。

「絵本の世界を人形劇にして子どもたちに伝えたい」という思いで始まった活動ですが、昨年は初めてオリジナル脚本の人形劇に挑戦しました。慣れない作業も多く、試行錯誤を繰り返しましたが、良いステージを作りあげることができました。今後「みんな違っていいんだ

よ」夢を持つ」ととにかく楽しく「想像力を育てよう」などのメッセージを込めたオリジナル作品を増やしながら、活動に励んでいきたいと思っています。

与田準一記念館運営ボランティア

代表者 大田黒初枝

福岡県みやま市

福岡県読書推進運動協議会

郷土の先達である与田準一を顕彰しようという地域の思いが高まり、2009年、与田準一記念館が開館しました。前年に与田家から寄贈された遺品の整理活動を続けていた私たちに、市から「記念館運営ボランティア」としての依頼がありました。そこで、グループ名を決め、〇独自でできること

〇遺品の整理、館内の案内、啓発できるように学習会の開催 〇図書館行事と共にできること 〇節目の折の記念式典 と、計画して進めてきました。

みやま市では、全小学校で5年生の総合的な学習の時間に「私たちの先輩 与田準一先生に学ぼう」という学習に取り組んでいます。その学習では、私たちにゲスト

ティーチャーの声がかり、記念館来訪の折は、展示物案内をします。5年生のみなさんに伝えていけるのは、与田準一の作品づくりの土台となっていることです。

まず、大好きなふるさとがあるということ。清水山があり、矢部川があり、四季の移り変わりを見事に見せてくれ自然あふれる地に生まれ育つたから詩人になれた」と与田は言っています。

もうひとつは、子どもたちを愛しているということです。与田は「東京までの十代後半を田舎教師ですごした。そこでの児童生徒との得がたい合歓が児童文学作家としての素地となった」と言っています。

学習を通してたくさん作品にふれ、「自分の好きな詩をひとつ選び、心に残った一節を書き出し、その詩を絵に表して」と呼びかけています。できた作品は記念館の入り口に飾っています。子どもたちと共に学習し、このような成果を見届けられて感無量です。

与田準一の遺品整理も続けています。愛知淑徳大学 青木文美教授や学芸員の指導を受けながら週2回の活動です。与田は川端康成などたくさんの方の文学者からの4000通以上の書簡を残してい



資料の整理に館内ガイドと記念館を支える

ます。また、生涯に80冊73年間におよぶ日記帳も残っています。この膨大な記録が、与田準一を考える上で大いに役立ちますし、日本の童謡史を見直すうえでも重視すべきものということで、翻刻をしています。

このように、「ろんぐらんぐ」として、記念館に所蔵されている資料を整理したり、学習会を開催したり、子どもたちの学習支援にかかわったりすることができ、顕彰への情熱はますます強くなっています。

訂正とお詫び

『読書推進運動』699号(2026年2月15日発行号)に巻頭において、筆者の飯窪成幸さまの肩書に誤りがございました。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。

誤

株式会社文藝春秋 代表取締役
株式会社文藝春秋 代表取締役

正

ことばがきみの はねになる

2026・第68回 こどもの読書週間 4/23~5/12

■日本書店商業組合連合会・日本児童図書出版協会がリスト作成

小学校国語教科書に掲載・紹介 されている図書が一堂に！

日本書店商業組合連合会と日本児童図書出版協会は、現行の小学校国語教科書に掲載・紹介されている本を、教科書発行ごとにまとめたリスト「新しい教科書に出ている本」を、ホームページで紹介している。

同リストは、教科書出版社ごとにエクセル、PDF形式で用意されている。教科書掲載・紹介作品が収録されている図書が、出版社

(日本児童図書出版協会会員社のみ)別に、学年順で並べられている。本来、書店が学校図書館納入時に使用することを目的としたリストだが、4月10日の「教科書の日」にあわせて、書店店頭でのフェアや図書館での特集など、展示のヒントとしても活用できる。また、教科書での教材名も掲載されているので、ブックトークなど

■4月10日「教科書の日」

紙・デジタル、それぞれの特性を活かした教科書を



今年の「教科書の日」ポスター

実演プログラムでの活用も可能

●日本書店商業組合連合会

ホームページ

<https://www.j-shoten.jp/>

●日本児童図書出版協会

ホームページ

<https://www.kodomo.gr.jp/>



日本児童図書出版協会ホームページより

一般社団法人教科書協会は、

4月10日の「教科書の日」啓発ポスターを作成し、学校、図書館、教科書取扱書店などに配布、掲出を依頼している。

今年のキャッチフレーズは「学びは続く。未来はひろがる」。デジタル教科書の広がりを受け、紙・デジタル双方での学びが描かれた。また、「教科書の日」15周年を記念したロゴの公募も行う。

ポスターの送付希望、「教科書の日」についての詳細は、教科書協会まで。

●教科書協会

<https://www.textbook.or.jp/>

事務局報告(2月)

- ・2日「子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰」審査員を文部科学省に提出
- ・3日「2025年度子ども読書推進会議第2回総会」開催
- ・5日「東京子ども図書館」リニューアル覧会 出席
- ☆6日「機関紙『読書推進運動』699号 入稿
- ☆9日「機関紙『読書推進運動』699号 専了
- ・10日「全国学校図書館協議会」第71回青年読書感想文全国コンクール表彰式」出席(経団連会館)
- ☆12日「こどもの読書週間」ポスター初校出校
- ☆13日「機関紙『読書推進運動』699号 出来
- ☆17日「こどもの読書週間」趣旨書 入稿
- ・15日「伊藤忠記念財団「子ども文庫研究交流会」出席(出版クラブビル)
- ☆17日「2025年度、第3回理事會開催
- ☆20日「こどもの読書週間」ポスター再校出校
- ・20日「日本児童図書出版協会来所、絵本ワールド事業についてつちあわせ
- ・23日「JBBY「JBBY賞」贈呈式」出席(出版クラブビル)
- ☆24日「こどもの読書週間」ポスター 専了
- ・26日「伊藤忠記念財団「2025年度子ども文庫助成事業」贈呈式」出席(伊藤忠本社ビル)
- ・27日「全国学校図書館協議会」第37回読書思想圏中央コンクール表彰式」出席(如水会館)
- ・27日「上野の森親子ブックフェスタ2026」後援依頼を各団体に郵送



読書推進運動協会 X (旧 Twitter)

●編集部&事務局のひとこと

「ヒビが入っているという感じでしょうか? それともポキッと「ポキッと」……先月、母が椅子からすべり落ちて、救急車で病院へ。大腿骨骨折の診断を聞き、第一報を弟へ入れたところ、冒頭のやり取りとなりました。この「ポキッ」はその後、レントゲンの撮影角度と説明してくれるお医者さんによって、「パカッ」「ポキッ」といつてガツツ」と、表現が変わりました。

たしかに、ぼつかり折れていますし、ぼつかり割れたようにも見えますし、床に打ちつけた衝撃で一部が股関節にがつつりとはまり込んでいます。手術後には、プレートできれいに補修された大腿骨のレントゲンを前に、「骨頭(大腿骨の股関節に収まる球体上の部分)がグシャツとなっていたら、回復が困難でした」と、これまた新しい表現が。母のだけがという現実から逃避したいのか、職業柄からなのか、骨折の状況を説明することばの豊かさ(?)に、感じ入っていました。

●私自身は歯医者以外の病院と縁が薄いので、今回の母の骨折により、医療知識や技量だけではない、患者の心理的負担が大きい状態の説明など含め、語彙力・表現力もお医者さんは磨かなくてはいけないのだなと知りました。また、退院時には、お医者さん・看護師さん双方より、在宅介護テーションへの引継ぎ文書が複数用意され、帰宅後スムーズにリハビリ開始、病院のみなさんの話す力、書く力のおかげで、母のリハビリは好調に進んでいます。(伸)